

共栄堂薬局さど店

◆セルフメディケーションをサポート  
セルフメディケーションとは、自分で自身で健康を管理し、あるいは疾病を治療することだ。

医療は進歩し私たちの寿命は延び、ますます長く自分の体ともお薬ともうまく付き合っていかなくてはならない時代になつた。同時に、医療費削減の観点からもセルフメディケーション

(共栄堂様ホームページから一部抜粋)  
取扱うのである。

向者がいる。都合3名だ。素晴らしい。  
若いこの二人が地域医療のみならず、  
種々の地域貢献をすることを期待する。



相談できる「健康ステーション」を目指しております。新しく尾花地域の仲間となります共栄堂薬局など店を、どうぞ今後とも宜しくお願ひ致します。

患者の中には複数の医療機関に受診して、複数の薬局でお薬をもらつているという方もいる。薬をもらう薬局を一つにすることで、毎回、同じような話をせずに済み、飲み合わせ確認もスマートに行われ、より安心して薬を使えることができる。

共栄堂は、そんな地域に根付いた、かかりつけ薬局・薬剤師を目指して、日々、患者と接している。

A young woman in a white lab coat and red lanyard stands behind a counter, smiling and holding up a clipboard with handwritten notes. Behind her is a computer monitor and a printer. The background shows a clinical or laboratory setting.



ついて不安になるものである。共栄堂の薬剤師は、そんな不安や、わずらわしさを解消する。



ることである。主な業務内容は店舗にて、調剤業務、服薬指導、薬歴管理である。さど店は清潔で明るくフレッシュ、一度行ってみるとお勧めしたい。薬局長は管理薬剤師の後藤さん、医療事務員は菊池さん、とにかく若くて応対もスマート明るく感じが良い。

No.75(14)

尾花地域再開発情報第3弾

旧佐渡総合病院跡地による尾花地域再開発は、昨年7月に「たびのホテル佐渡」オープニング、令和元年7月には「メディカルゾーン」が事業開始した。ホテルの業務開始による地域貢献は計り知れない位の効果をもたらしておらず、メディカルゾーンの業務開始により地域開発は更にグレードアップされるものと期待している。尾花の地域再開発については本誌でも数回取り上げてきたが、今回「尾花の知つ得」として特集した。

まず、旧佐渡総合病院跡地を購入、その溢れんばかりのフロンティア精神と若さで地域開発を推進された、株式会社共栄堂の元代表取締役会長小林清様のご挨拶から紹介します。



A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, smiling broadly. He is wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt and a patterned tie. The background is a plain, light-colored wall.

私は小林清と申します。新潟市秋葉区（旧新津）の生まれで育ちも現住所も新津です。年齢は一九四〇年生まれの七八歳と10ヶ月です。昨年、株式会社共栄堂を退社致しまして現在は年金生活者の立場であります。



は我が社だけだつたそうです。  
具体的には佐渡市の要望も聞きまして「皆さんに喜んで頂ける施設はビジネスホテル」「日帰り手術を受けられる眼科医院」「お年寄りの必要なお店として補聴器専門店」「私どもの専門分野の薬局」に絞りました。  
ビジネスホテルについて私どもは全く経験がありませんでしたが、幸いにも佐渡島出身のサンフロンティア不動産の堀口社長をご紹介頂きまして全面的なご協力のもと無事にオークションできました。



この7月には、さど眼科・共栄堂薬局・リオネットセンターも全面開業となりまして、事業としては一段落致しました。若い人の雇用の場も広がり観光客も増えています。佐賀市を中心にして長つ